

校長室より

第81号

「天空高き」



平成28年3月5日

## 卒業式を終えて

3月1日の卒業式は、卒業生としての自覚と誇り、在校生の送る態度や姿勢によって、高水らしい、素晴らしい式となりました。皆さんに感謝します。

翌日の2日、一時限目に校舎を回っていると、3年生の教室では、いつものように教室で自習をしている受験生がいました。隣の教室では、先生の指導を受けていました。

彼らは私立大の後期試験や国公立大の2次試験に向けて頑張っています。是非合格してもらいたいと思います。大学に入学して更なる高みを目指して、一層学問に励んでくれるものと期待します。

彼らの次のステップを目指して、一途に取り組む姿勢は、これからも彼らの大きな財産になります。次に控えている在校生も、彼らの姿勢に大いに影響を受け、高水の伝統を引き継ぐとともに、新たなる伝統を築き上げてくれるものと思います。



## 春はすぐそこにー3月6日、啓蟄(けいちつ)ー

3月1日の卒業式の日、外はうっすらと雪化粧していましたが、日に日に気温は上がってきています。

3月6日は二十四節気では啓蟄です。啓蟄とは虫が冬眠から目覚め活動を始める頃という意味です。しかし、実際に虫が活動を始めるのは日平均気温が10℃を超えるようになってからで、鹿児島で2月下旬、岩国は3月中旬、東京や大阪で3月下旬、札幌は5月上旬頃に当たります。



いま、私たちの生活は科学の発達と技術革新によって、随分便利になりました。反

チャンスは備えのあるところに訪れる

パスツール

面、自然とのかかわりが希薄（きはく）になってきています。

私たち日本人は、古来より自然からの大いなる恵みによって生命の維持や人格の形成に大きな影響を受け、生かされてきました。私たちは自然との豊かな触れ合いを通して、美しいものや自然に感動する心を養い、自然と人間との調和を重視する行動様式を身に付け、日本独自の文化を育んできました。

生みなぎる春が目の前に訪れています。しばし、皆さんの目で、耳で、からだ全体で、春の訪れに触れてください。

## 主体的に仲間と協働して創造するーアクティブラーニングー

いま、付属中学校では全教員がアクティブ・ラーニング（略してAL）を取り入れた研究授業が行われています。

2月25日（木）5時限、生物教室で中1の1組と2組の合同授業を参観しました。

イカ（スルメイカ）の解剖を通して、軟体動物の体のつくりや特徴を知り、脊椎動物との共通点・相違点を見つけ出すことが、「ねらい」です。

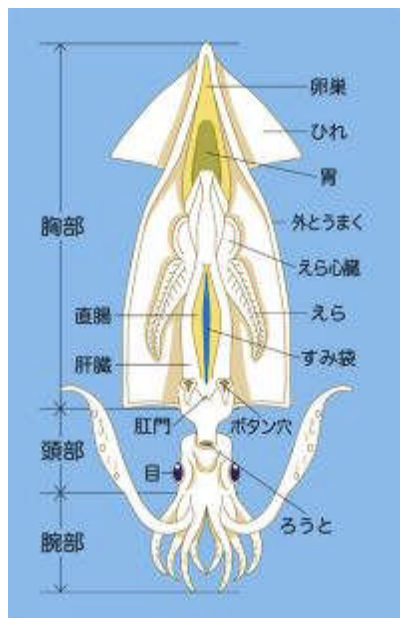
まず、イカをよく洗い、トレイに置き、「外套（がいとう）膜」「ひれ」「腕」「吸盤」「漏斗（ろうと）」「口」「眼」の形態を観察、スケッチします。次に解剖して内臓の構造等を観察して行きます。

生徒たちの解剖実験を観ながら、いろいろなことを発見したり、あらためて再認識することもたくさんありました。

①イカの腕は10本といますが、本当はタコと同じで8本です。10本のうちの2本は触腕と呼ばれるもので、他の腕より長く、先が木の葉の形をしていること。②イカの吸盤はタコと違い、硬い角質環があること。③イカの口を取り出すと、カラストンビと言われる黒っぽい顎（がく）版があり、口の中を開けて見ると、ざらざらした歯舌というおろし金のようなものを持っていること。

さらに、内臓の解剖をしていくと、からだのつくりや働きが、軟体動物であるイカと脊椎動物であるヒトがよく似ていることに、あらためて勉強させられました。

あっという間の50分授業でした。生徒たちが、班



同士でお互いに発表する態度や聴く姿勢の良さや、お互いに声を掛け合いながらきばきと協力して後片付けする姿勢には、好感が持てました。日頃の先生方のきめ細やかな指導の成果だと思えます。

今回の研究授業では、木村・村本両先生が AL の手法を通して、生徒たちがお互いに思考を深めたり、他の生徒と協働することで多様な考え方があることを学習したと思えます。

## 進化し続けるー第4回中六合同発表会ー

4回目を迎えた中六合同発表会。回を重ねるごとに進化していることをうれしく思います。

総合的な学習の時間、楽学を利用して研究した成果を、予選を勝ち抜いたクラスのグループ発表がありました。

プレゼンを見聞きしながら回を重ねるごとに、確実に上達していることを実感しました。これまでの3回の発表会での経験を活かし、それをさらに創意工夫して、内容の構成方法や発表の仕方に向上が見られました。次年度は、各テーマに対して既存の見方や考え方と異なる中学生や高校生らしい視点でのアプローチを期待したいと思います。

次に、校外コンクール等で優秀な成績を収めた作品の紹介と発表がありました。

山口県科学作品展で入選した中1 ラモス君の「永遠の生命体プラナリア」は、異形プラナリアから異形プラナリアがどのような順番で再生するかについての発表でした。異形プラナリアがまた異形プラナリアを再生すること自体、驚きでしたが、中学生のレベルを遥かに超えた研究だと思えます。

S1 永富さんの国際理解・国際協力のための高校生主張コンクール「戦後70年の日本と国連」、S2 山本さんの「心の中に平和」エッセイ・作文コンクール「異文化交流で見つけた平和」、ともに、彼女らの鋭い視点と瑞々しい感性に感動しました。

最後の全日本高校模擬国連の紹介は、ある生徒の「模擬国連ってはずごいんじゃね」という言葉に象徴されるように、ハイレベルな大会で彼らが悪戦苦闘したことがわかります。全国の強豪校に圧倒されながらも果敢にチャレンジした、S2 山本・佐崎さんとS1 小山・松永さんに敬意を表したいと思います。そして、松永さんの言葉、「チャレンジしなければ、何も変わらない」という力強い言葉が、彼らの成長を物語っていると思えますし、この中六合同発表会「楽学」の目的と意義も語ってくれていると思えます。





## 「人生を考えるのに遅すぎるということはない」

1, 2, 3月は、「行って、逃げて、去る」という表現で表されるように、時の経過を早く感じ、気が付けば、もう3月。

この時期は、やらなければならないことがいっぱいあるのに、なかなか思うように進まないのが現実です。この年齢になってもそうですから、若い皆さんは、気に病む必要はありません。

あと1月で皆さんはそれぞれ進級します。4月8日には新入生が入学してきます。

中学生になったら、高校生になったら、こんなことをしたいと、夢や希望を持って入学してきたと思います。それに向かって、一生懸命努力していますか。

私にもやりたいことや実現したいことがあります。日々の生活に追われ、なかなか思うよう行きません。しかし、思い続けることはとても大切なことです。思い続けなければ、夢や目標を達成することはできませんから。

『人生を考えるのに遅すぎるということはない』という本があります。この本は、「15歳の寺子屋」という若い人向けのシリーズ本から、10人の作品を選び、その真髓をまとめたものです。

新しいことを始めたいと思ったら、「何歳になっても決して遅くはありませんよ」というメッセージです。私にとっても、大いに参考になるメッセージで、勇気と希望を与えてくれました。若い皆さんにとっては、なおさらのことです。

若い皆さんは、いろんなことに、どんどんチャレンジして下さい。何かに迷ったときには、行動を起こして下さい。チャレンジして、行動を起こして、それが例え失敗しても、その体験から何かを学びとることができるはず。そして、また新たにチャレンジ、行動を起こすことです。皆さんが、何かを成し遂げたいのなら、「挑戦と失敗」を繰り返すことです。私も「挑戦と失敗」を繰り返しながらも、夢や目標を追い求めています。



### 五つの誓い （「命の授業（腰塚勇人）」より）

- 口は 人を励ます言葉や感謝の言葉を 言うために 使おう・・・
- 耳は 人の言葉を 最後まで聴いて あげるために 使おう・・・
- 目は 人の良いところを見るために 使おう・・・
- 手足は 人を助けるために 使おう・・・
- 心は 人の痛みがわかるために 使おう・・・
- 私を助けてくれた人たちがしてくれたことを 今度は私がしよう・・・